

愛媛県臨床細胞学会会報

第 29 号

目 次

巻頭言	2
第 30 回 愛媛県臨床細胞学会学術集会	4
新制度・愛媛県臨床細胞学会学術奨励賞受賞者	16
第 29 回愛媛県臨床細胞学会学術集会概要	17
令和 2 年度愛媛県臨床細胞学会総会	19
第 30 回愛媛県臨床細胞学会役員会	20
第 30 回度愛媛県臨床細胞学会総会	22
愛媛県臨床細胞学会 会則	24
令和二年度会計報告	27
愛媛県臨床細胞学会 会員名簿	28
編集後記	29

発行者 愛媛県臨床細胞学会
発行日 令和4年4月28日

巻 頭 言

愛媛県臨床細胞学会会長 寺本典弘

愛媛県臨床細胞学会会報・第 29 号を発刊しました。

今年度から愛媛県臨床細胞学会の会長を引き継ぎました。といっても、まだ学術集會を開いていませんし、最近は集まる機会も少なくて実感がなかなかわきません。

学術集會では、皆様とお会いできるのを楽しみにしています。特別講演は国立病院機構茨城東病院胸部疾患・療育医療センター病理診断科 病理診断部長 南優子先生に「肺癌細胞診 UPDATE」をお願いしています。また、私も会長になった記念に、「症例報告の作法 令和 4 年版 update」と題して講演します。シンポジウムは「細胞診用語 Update」です。座長・コーディネーターには積極的に若手を起用しています。フロアからのサポートをお願いします。翌日の朝から役に立つ学術集會になることを期待しています。

愛媛県は人口や経済などいろんな意味で日本の100分の1ですので、愛媛県の支部会には日本臨床細胞学会とは違った100分の一らしい役割があるはずですが、それは何かと考えていました。日本臨床細胞学会の定款第3条によるとその目的は『わが国における臨床細胞学の**学術研究の発展**を図り、細胞診断実務に従事する者に対して**細胞診断の教育指導**に関する事業を行うことで、国民の医療、福祉及び公衆衛生の向上に寄与することを目的とする。』とされています。中でも赤文字の2点が重要なポイントです。国を県に置き換えるだけで意味は通じますが、下のように愛媛県に適切なスケールに落とし込んでみました。

- 細胞診断の教育指導
 - 地元の細胞検査士・専門医の資格取得の援助
 - 研修の機会の提供: スライドカンファレンス・教育講演の企画、ウェブセミナーの情報共有
- 学術研究の発展
 - 全国で知られる細胞検査士・専門医の育成
 - 臨床医の会員数を増やす

そのため的手段を皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。学術集會の内容や開催時期なども徐々に変えていきたいと思っています。奨励賞は全国で知られる細胞検査士・専門医の育成を目標としたもので、一足先にはじめさせていただきました。おそらく過去の実績を問わない、やる気の申し出だけを基準とした奨励賞は全国的に例がないと思

いますが、成果が出れば続けていきたいと思っています。

これを書いている時点ではコロナ第6派がまだくすぶっている状態です。この学術集会もそのあおりで延期になりました。うっとうしいかぎりですが、コロナ対策を決められる立場ではないので、今少し辛抱しなければしょうがありません。しかし、私のやっている別の仕事で『健康のための行動は自粛してはいけません』というメッセージを出しました。飲食・大声を伴わないイベントでのクラスターはごく少ないとされています。そこで、現地開催を敢行します。

愛媛県臨床細胞学会は若い方々の活躍を期待します。本会の益々の発展のため、引き続き会員皆様のご協力をお願い申し上げます。

会員の皆様との連絡のため、今後もメーリングリスト、ホームページを活用したいと思っています。

HP URL <http://cyehime.webnode.jp/>

(令和4年3月14日)

第 30 回愛媛県臨床細胞学会学術集会

日時 令和 4 年 3 月 21 日(月) 9:30～

会場 愛媛県立中央病院 講堂

－ プログラム －

I 開会の辞 (9:30 ～ 9:35)

II 会長講演 (9:35 ～ 10:05)

座長 愛媛大学医学部附属病院 病理診断科 谷脇真潮

[症例報告の作法 令和 4 年版 update](#)

四国がんセンター 病理科/がん予防疫学研究部長

寺本典弘

III 一般演題 (10:10 ～ 10:40)

座長 愛媛県立医療技術大学保健科学部臨床検査学科

細川 翔

1) 頭蓋内病変の術中迅速細胞診の有用性

愛媛大学大学院医学系研究科解析病理学¹⁾、愛媛大学医学部附属病院病理診断科²⁾

倉田美恵¹⁾、近藤拓弥²⁾、片山英司²⁾、明賀さつき²⁾、今井美奈²⁾、吉田拓海²⁾、森川紳之祐¹⁾、増本純也¹⁾、谷脇真潮²⁾、北澤理子²⁾

2) 皮膚病変を伴わない右頸部のメルケル細胞癌の一例

市立宇和島病院 病理診断科¹⁾、臨床検査科²⁾

薬師寺孝徳¹⁾、管恭弘¹⁾、吉本拓人¹⁾、薬師神由子¹⁾、中川健司¹⁾、中西護²⁾、松影昭一¹⁾

一般演題は発表 8 分、討論 4 分です。PC-プロジェクトを 1 台用意しております。

IV 特別講演 (10:45 ～ 11:45)

座長 愛媛県立中央病院 病理診断科

木藤 克己

[肺癌細胞診 UPDATE](#)

国立病院機構茨城東病院胸部疾患・療育医療センター

病理診断科 病理診断部長 南優子

V 昼休み (11:45 ～ 13:15)

VI シンポジウム (13:15~14:55)

「細胞診用語 Update」

コーディネーター 四国がんセンター
岡本奈美, 谷口緑

1) 細胞診における「ほつれ」と「結合性」

松山市民病院病理検査室¹, 同病理診断科²

湊憲武¹, 岡崎恭介¹, 松家由紀¹, 和泉元雅子¹, 飛田陽²

2) 化生について

愛媛県総合保健協会検査部¹, 同医局², 済生会西条病院病理診断科³

藤田泰吏¹, 風谷早紀¹, 伊能公代¹, 山口美紀¹, 上田翔子¹, 高橋若菜¹, 金子真由美¹,
水野和江¹, 深田千尋¹, 佐伯健二¹, 池谷東彦², 植田規史³

3) 呼吸器における組織型別クロマチンの特徴

愛媛県立中央病院検査部¹, 同病理診断部²

亀岡美咲¹, 尾崎萌¹, 玉井佑弥¹, 和田裕貴¹, 越智景子¹, 加藤真紀子¹, 高石裕子¹,
森理恵¹, 井上信行¹, 兵頭直樹¹, 木下幸正¹, 木藤克己², 杉田敦郎², 前田智治²

4) 乳頭状、重積、篩状構造について基本から学び直そう

～乳腺細胞像を振り返って～

西条中央病院 臨床検査部

佐伯 勇輔

5) 細胞診用語とその実際の組織像について

松山赤十字病院 病理診断科 水野洋輔

VII 令和3年愛媛県臨床細胞学会総会 (15:00 ~ 15:20)

— 第 30 回愛媛県臨床細胞学会学術集会抄録集 —

特別講演

肺癌細胞診 UPDATE

国立病院機構茨城東病院胸部疾患・療育医療センター 病理診断科

南優子

かつては生検検体や細胞診検体では非小細胞肺癌と小細胞癌の区別の診断をするまでも問題はなかった。しかし、肺癌の治療は目覚ましく、近年分子標的薬が第一選択薬として使用されるようになり、非扁平上皮癌、扁平上皮癌、小細胞癌の区別まで必要になってきた。また生検検体のみならず、細胞診検体を用いた遺伝子検査も行うようになってきたことから、細胞診検体の必要性、診断の正確性が求められてきている。

そこで本講演では、1つは私が参加する国際肺癌学会 (IASLC) の病理委員会の Cytology group での細胞診検体を用いた研究活動を報告する。加えて日本肺癌学会および日本臨床細胞学会ワーキンググループで行っている呼吸器細胞診判定基準の標準化および国際化を目指した活動や次回の細胞診ガイドラインに関してなどを紹介する。

会長講演

症例報告の作法 令和4年版 UPDATE

四国がんセンター病理科

寺本典弘

第59回臨床細胞学会(2018年)で発表した『症例報告の作法』は細胞診専門医師指定講演になったため、無理矢理動員された専門医しか聞くことがなかった。今回愛媛県臨床細胞学会員にも聞いてもらいたいと考え、再度講演する。

臨床細胞学会の発表のうち症例報告は大きな割合を占める。しかし、如何に症例報告を行うべきかについて学会等で語られることはすくない。そこでこの講演では、論文作成についても一部触れながら、学術集会での症例報告の作法について、次の3つの点について一緒に考えてみたい(1:症例報告の形式、2:プライバシー保護、3:報告症例の選択)。

1:殆どの症例報告は、タイトル、緒言、臨床経過、細胞・病理所見、考察・結語とならぶ。口演の場合は、時系列に沿って細胞・病理所見が語られてもかまわないが、抄録、ポスターや論文ではそれぞれ別にまとめられることが定石である。同じ形態で提示することで、少ない時間で多数の症例報告を把握しやすくなる。

2:演者の所属から患者の施設が推測されるので、患者の知人にとっては容易に個人特定ができることに注意する。個人情報に直結するものやイベントの年月日は勿論、直結しなくても不要な診療情報は書かない。時系列に沿った物語的提示の方が分かりやすい場合もあるが、プライバシーの保護に関わる場合が多いので報告の本質でない限りは避ける。

3:報告症例を診断名が珍しいかどうかで選ぶべきではない。その症例について知ることが、他の医療者について有益かどうかを基準とすべきである。抄録集を読む殆どの方は演題名しか見ないので、何故その症例を報告する必要があるのかを明瞭に伝わる演題名にする必要がある。よくある『腫瘍名+の1例』というタイトルはスライドカンファレンス以外ではつけてはいけない。

シンポジウム 「細胞診用語 Update」

コーディネーター 四国がんセンター
岡本奈美, 谷口緑

シンポジウムの趣旨について

私たちは、日頃細胞診断業務で、細胞像を描写するため様々な用語を使用しています。先人達が生み出した大切な用語であり、私達は研修の場や実務の中で、コツコツと身につけ、役立ててきました。

しかしながら、日常使う言葉だけに、わかったつもりでよくわかっていなかったり、慣れなどから、用語一つ一つに対し個人的な見解や判断基準が生まれてしまい、いざ他の検査士や専門医間で協議する際、細胞の見方にズレが生じることがあります。その結果、正確な情報が伝わらない場合があります。用語の細胞像のイメージが共通でなければ、正確な情報伝達が出来ないし、新人の教育上も問題となります。

そこで、本シンポジウムの場をお借りして、用語の持つ本来の意味や、その由来、細胞像の見え方とその所見から導き出せる診断、用語を使用する上で注意すべき点などを、皆様方と再確認し、用語を使う上での基準の共有を図りたいと思います。

1) 細胞診における「ほつれ」と「結合性」

松山市民病院病理検査室¹，同病理診断科²

湊憲武¹，岡崎恭介¹，松家由紀¹，和泉元雅子¹，飛田陽²

細胞診断の日常業務において、正確な細胞診用語の使用と細胞所見の認識は非常に重要である。複数ある用語の中で、「ほつれ」と「結合性」も重要な用語の内の一つである。今回、細胞診用語としての「ほつれ」と「結合性」について考察し、細胞像を提示する。

- ① 「ほつれ」とは集塊から細胞がこぼれる様に剥離する事である。その由来は縫い目・結び目・編んだ糸などがほどけるという意味である。腫瘍細胞に使用する場合、細胞接着性の低下を意味し、悪性を示唆する所見の一つである。提示する乳腺穿刺吸引細胞診(FNAC)・膵超音波内視鏡下穿刺吸引細胞診(EUS-FNAC)標本では、悪性を疑う異型細胞が集塊辺縁からこぼれる様な所見を認める。それぞれ乳管癌・腺癌である。用語を使用する上での注意点として、直接塗抹標本では、正常細胞でも集塊からこぼれる様に見える事が多々ある。これは塗抹過程において集塊から細胞の物理的剥離が生じるからであり「ほつれ」とは言わない。
- ② 「結合性」とは細胞と細胞の接着性の事である。閉鎖・固定・連絡結合が上皮細胞の結合に関連している。乳腺 FNAC・膵 EUS-FNAC 標本では共に、正常細胞が細胞接着性の良好なシート状集塊で見られるのに対して、腫瘍細胞において結合性の低下が認められる。組織診にて乳腺は浸潤性乳管癌(腺管形成型)、膵は腺癌(中～高分化型)であった。用語を使用する上での注意点は、炎症が強い場合の組織球集簇は、結合性がなくても癌ではない事である。

最後に、適切な用語の使用は病理スタッフ内での情報伝達を円滑にするという点でも、細胞診断の精度を向上させる点でも重要と考える。

2) 「化生」について

愛媛県総合保健協会検査部¹, 同医局², 済生会西条病院病理診断科³

藤田泰吏¹, 風谷早紀¹, 伊能公代¹, 山口美紀¹, 上田翔子¹, 高橋若菜¹, 金子真由美¹, 水野和江¹, 深田千尋¹, 佐伯健二¹, 池谷東彦², 植田規史³

化生は日々の細胞診検査で遭遇する機会の多い細胞の変化である。日本臨床細胞学会が出している細胞診用語解説集には、化生は「ある組織の成熟細胞が別の細胞に置換されること。この変化は何らかの刺激により惹起される。また、この変化はもとの細胞の胚葉を越えてはおこらない。すなわち、もとの細胞が内胚葉であった場合、化生してできた細胞も内胚葉の細胞である。この変化は可逆的変化である場合が多い。」と記載されている。

また、化生自体は良性の変化とされているが、臓器によってがんの発生に関与していたり、異型が強い場合は良悪の鑑別に苦慮したりすることがある。近年の日本臨床細胞学会の全国大会で化生という単語を抄録中に使用している演題を調べると、臓器別では乳腺、子宮頸部、子宮体部、唾液腺、呼吸器に多いため、これらの臓器で化生が診断上問題もしくは重要視されている可能性が高いと思われる。

今回の発表では、総論で各臓器によくみられる化生について、各論で子宮頸部と体部にみられる化生の細胞所見やその所見から考えられる診断について解説する。

3) 呼吸器における組織型別「クロマチン」の特徴

愛媛県立中央病院検査部¹, 同病理診断部²

亀岡美咲¹, 尾崎萌¹, 玉井佑弥¹, 和田裕貴¹, 越智景子¹, 加藤真紀子¹, 高石裕子¹,
森理恵¹, 井上信行¹, 兵頭直樹¹, 木下幸正¹, 木藤克己², 杉田敦郎², 前田智治²

細胞診検査で使用する用語には多くの種類があり、その中でも「クロマチン」は良悪性の指標として核所見を説明するために非常に重要な用語の一つである。

通常悪性細胞では、正常細胞と比較して核クロマチン増量や異常凝集を認めるため、その量や構造、分布に応じて細顆粒状や粗顆粒状などと表現され、疾患や組織型の違いによっても特徴的なクロマチンパターンを有している。

そこで今回我々は、様々なクロマチンパターンが存在する呼吸器領域の細胞診に注目し、疾患や組織型に応じたクロマチンの特徴を紹介するとともに、核が変性や濃染した剥離細胞においては、クロマチンの異常分布が必ずしも悪性を示唆する所見ではないことから、供覧の上再確認したい。

4) 「乳頭状」、「重積」、「篩状構造」について基本から学び直そう

～乳腺細胞像を振り返って～

西条中央病院 臨床検査部

佐伯 勇輔

【はじめに】細胞集塊は、結合性をもった細胞の集まりを意味する。まず、平面的か立体的(重積)かどうかを観察する。そして、乳頭状、篩状等の構造的特徴を把握する。これらの性状は、良悪の鑑別と組織型推定において重要である。今回は、乳腺症例を用いて、乳頭状、重積、篩状について解説する。

【用語】乳頭状とは、乳頭(papilla)を思わせる小突起状の形態を意味し、集塊の内側に血管結合織を芯とした構造を認めるものを典型的な例と称する。重積とは、細胞が三次元的に重なり合って多層化している状態である。篩状とは、重積傾向のある集塊のなかに円形の腺腔が数個ないし多数認められる像を指す。

【細胞像】組織診において、乳頭状、重積、篩状、の所見が認められた症例について細胞標本を見直した。それらの標本中に見られた細胞像を組織標本と対比して呈示する。組織診において、ductal hyperplasia、DCIS(cribriform-papillary)と診断された症例を用いた。

【結語】細胞の出現様式をチェックする上で、典型的な細胞像と用語を理解しておくことは基本である。そして、実際の症例を再検討することが用語の共有化には必須であると考えられた。

5) 細胞診用語とその実際の組織像について

松山赤十字病院 病理診断科 水野洋輔

異常所見を拾い上げ正しく専門の細胞診用語で表現する能力を養うことは実際の細胞診業務のみに限らず、細胞検査士の教育や細胞診断従事者間での情報交換の上でも大切である。その細胞所見が、組織標本上においてどのように見えるのか、どのように診断と結びつくのかを把握しておくこと、細胞診用語の理解がさらに深まる。

今回、4つの細胞診用語(①膀胱と乳腺領域における細胞のほつれ、結合性、②子宮頸部及び内膜における化生、③呼吸器領域におけるクロマチン、④乳腺領域における乳頭状、重積性、篩状)の細胞像が組織標本上ではどのように見え、最終的にどのような組織診断につながるのかを、若干のピットフォールを避けるための tips を交えて解説する。

一般演題

1) 頭蓋内病変の術中迅速細胞診の有用性

愛媛大学大学院医学系研究科解析病理学¹⁾、愛媛大学医学部付属病院病理診断科²⁾
倉田美恵¹⁾、近藤拓弥²⁾、片山英司²⁾、明賀さつき²⁾、今井美奈²⁾、吉田拓海²⁾、森川紳之
祐¹⁾、増本純也¹⁾、谷脇真潮²⁾、北澤理子²⁾

はじめに

頭蓋内に発生する腫瘍は術中迅速病理診断が初回の病理学的診断で、かつそれによつて治療方針が決定されることが多い。膠芽腫のように可及的摘出が望まれかつ術中に脳内留置薬剤が使用される腫瘍や、悪性リンパ腫のように診断のための生検にとどめ、後日化学療法や放射線療法が選択される腫瘍などがある。正確な診断が求められる一方で、脳組織は水分が多いため凍結切片作成時のアーチファクトが生じやすく組織診断を困難にさせている。今回私たちは High grade glioma と他の病変を鑑別するために、凍結標本に迅速細胞診を加えて検討した。

対象と方法

2021 年 1 月から 12 月まで、脳外科から提出された術中迅速診断 99 例中 30 例で術中迅速細胞診を行った。提出された検体で捺印細胞診検体を作成した後、同一検体を用いて凍結切片を作成した。細胞結合性の有無、細胞突起の有無、核異型、壊死や異常血管の有無、核線の有無を検討し、迅速凍結切片、FFPE 切片や免疫染色標本との比較を行った。

結果

組織診断は FFPE 検体の HE 染色と免疫染色により診断した最終報告に基づき行った。30 例の内訳は、high grade glioma 11 例、転移性脳腫瘍 6 例、髄膜腫 4 例、下垂体腺腫 3 例、悪性リンパ腫 1 例、その他 5 例だった。迅速細胞診検体によつて、High grade glioma 症例では核異型や壊死性背景が見られ、凍結組織切片では観察が難しい細胞突起も確認できた。リンパ腫症例では細胞突起のない異型細胞集塊を確認できて、鑑別に有用であった。

結語

頭蓋内病変において、術中迅速細胞診を迅速凍結切片に併用することにより、細胞学的な情報が増え、的確な診断に有用であった。

2) 皮膚病変を伴わない右頸部のメルケル細胞癌の一例

市立宇和島病院 病理診断科¹、臨床検査科²

薬師寺孝徳¹、管恭弘¹、吉本拓人¹、薬師神由子¹、中川健司¹、中西護²、松影昭一¹

【はじめに】メルケル細胞癌は、高齢者の眼周囲を含む頭頸部および四肢に好発し、神経内分泌細胞への分化を示す比較的稀な皮膚の悪性腫瘍と報告されている。今回我々は、皮膚病変が観察されず、細胞診診断に苦慮したメルケル細胞癌症例を経験したので報告する。

【症例】80歳代男性。右頸部に小さな腫瘤を自覚し、徐々に増大したため、前医受診。右頸部に可動性良好、弾性硬、圧痛の無いリンパ節が触知された。リンパ腫などの悪性腫瘍が疑われ、精査加療目的に4ヶ月後当院紹介受診。CTで右頸部に20mm以下の結節が観察された。穿刺吸引細胞診で悪性リンパ腫が疑われ、右頸部リンパ節生検が行なわれた。生検組織からメルケル細胞癌と診断された。術後、皮膚科で、頭部～上半身全体を検索したが、明らかな皮膚病変は見られなかった。PET-CTでも、右耳下腺にFDG集積(SUVmax=4.7)を伴う1cm大の転移巣と考えられる結節が観察されたが、原発を疑う皮膚の腫瘤病変は見られなかった。

【細胞像】穿刺吸引細胞診検体のパピニコロウ染色では、N/C比が高く、赤色調の複数の核小体、すりガラス～細顆粒状核クロマチン、薄い核縁を持つ、細胞結合性の弱い大型異型細胞が多数観察され、悪性リンパ腫が疑われた。生検組織の捺印細胞診では、小型リンパ球を背景に同様の腫瘍細胞が多数観察されたが、やや結合性のある腫瘍細胞集塊も観察された。

【組織像】同様の異型細胞が胞巣状、個在性に増殖しており、免疫染色でこれらの腫瘍細胞は、CK7- CK20+ CD56+ chromogranin A 一部弱陽性 synaptophysin+ であった。メルケル細胞癌として矛盾しない像であった。

【まとめ】皮膚病変を伴わない右頸部のメルケル細胞癌の一例を経験した。

新制度・愛媛県臨床細胞学会学術奨励賞受賞者

近藤 拓弥	愛媛大学医学部附属病院・検査部
玉井佑弥	愛媛県立中央病院 検査部
兵頭直樹	愛媛県立中央病院 検査部
細川翔	愛媛県立医療技術大学保健科学部臨床検査学科

50音順

2020年度細胞診検査士合格者

渡部菜穂	(公立学校共済四国中央病院)
亀岡美咲	(愛媛県立中央病院)

例年より発刊が遅いため2021年度合格者は次刊掲載になります

第 29 回愛媛県臨床細胞学会学術集会概要

日時 令和 3 年 1 月 31 日(日) 9:30

～

会場 愛媛県立中央病院 講堂

－ プログラム －

I 開会の辞 (9:30 ～ 9:35)

II 特別講演 (9:35 ～ 10:35)

座長 前田智治

分葉状頸管腺過形成 (LEGH) の細胞診と臨床的管理

山梨大学医学部 山梨県地域医療支援センター 大森真紀子

講演スライドはタイトルからリンク有り

III 一般演題 (10:40 ～ 11:45)

座長 坂本真吾, 窪田裕美

- 1) 経食道的消音波内視鏡下穿刺吸引術にて確定診断した肺腺癌の一例
市立宇和島病院 病理診断科¹, 臨床検査科²
管恭弘¹, 薬師寺孝徳¹, 魚住重吏子¹, 薬師神由子¹, 中川健司¹, 中西護², 松影昭一¹
- 2) 肺原発多型癌の 1 例
松山市民病院病理検査室¹, 同病理診断科²
湊憲武¹, 岡崎恭介¹, 松家由紀¹, 和泉元雅子¹, 飛田陽²
- 3) 乳腺管状癌の 1 例
愛媛県立中央病院検査部¹ 同病理診断部²
尾崎萌¹, 和田裕貴¹, 越智景子¹, 加藤真紀子¹, 高石裕子¹, 森理恵¹, 井上信行¹, 木下幸正¹,
木藤克己², 杉田敦郎², 前田智治²
- 4) 乳腺穿刺吸引細胞診で判定に苦慮した invasive lobular carcinoma with extracellular mucin
の 1 例
愛媛県立中央病院検査部¹ 同病理診断部²
和田裕貴¹, 尾崎萌¹, 越智景子¹, 加藤真紀子¹, 高石裕子¹, 森理恵¹, 井上信行¹, 木下幸正¹,
木藤克己², 杉田敦郎², 前田智治²

一般演題は発表 8 分, 討論 4 分です. PC-プロジェクトを 1 台用意しております.

IV 昼休み (11:45 ～ 12:55)

V シンポジウム (13:00～ 14:30)

テーマ 子宮頸部細胞診に関する話題

コーディネーター 前田智治, 和田裕貴(愛媛県立中央病院)

講演スライドはタイトルからリンク有り

1) [当協会における子宮頸がん検診の推移\(2009～2018年\)と課題について](#)

愛媛県総合保健協会検査部¹, 同医局², 済生会西条病院病理診断科³

佐伯健二¹, 千羽祐帆¹, 風谷早紀¹, 浅海朋恵¹, 伊能公代¹, 山口美紀¹, 上田翔子¹,
藤田泰史¹, 高橋若菜¹, 金子真由美¹, 水野和江¹, 深田千尋¹, 池谷東彦², 植田規史³

2) [当協会における子宮頸がん検診\(対策型検診\)で発見されたASCの検討](#)

愛媛県総合保健協会検査部¹, 同医局², 済生会西条病院病理診断科³

藤田泰史¹, 千羽祐帆¹, 風谷早紀¹, 浅海朋恵¹, 伊能公代¹, 山口美紀¹, 上田翔子¹,
高橋若菜¹, 金子真由美¹, 水野和江¹, 深田千尋¹, 佐伯健二¹, 池谷東彦², 植田規史³

3) [子宮頸部腺癌の免疫染色を利用した診断アルゴリズムについて](#)

四国がんセンター病理科¹, 臨床検査科²

山元範昭¹, 寺本典弘¹, 高畑浩之¹, 田中慎一², 山本珠美², 楠真奈美²

4) [当院におけるASC-H症例の検討 ～ASC-Hは減らせるか～](#)

愛媛県立中央病院検査部¹, 同病理診断部²

前田智治², 尾崎萌¹, 和田裕貴¹, 越智景子¹, 加藤真紀子¹, 高石裕子¹, 森理恵¹, 井上信行¹,
木下幸正¹, 木藤克己², 杉田敦郎²

VI 愛媛県臨床細胞学会学術奨励賞表彰式および発表 (14:30 ～ 14:50)

座長 前田智治

「HCCGの鑑別(検鏡のコツ, 検体処理法による所見の違い)」

四国がんセンター 田中慎一

VII 令和3年愛媛県臨床細胞学会総会 (15:00 ～ 15:15)

令和2年度愛媛県臨床細胞学会総会

日時 令和3年1月31日 15:00～15:20:

会場 愛媛県立中央病院 講堂

出席者 約 80 名 (15 名+オンライン参加約 65 名)

議題

1. 本学会の研修単位 CT(JSC)10 点, CT(IAC)5 点 ・会員数 115 名
2. 会計報告 (令和元年度) は承認されました (会誌 40P)
3. 会運営 1) 次期会長は 2021 年 4 月から寺本先生になります
4. 2022 年の支部総会・学術講演会, 特別講演について
 - ・ 2022 年 1 月 30 日 (日)、会場は四国がんセンター、特別講演講師は未定 次回シンポジウム世話施設は四国がんセンター、
 - ・ 以降、市立宇和島→愛媛大学→県中→四国がん→松山赤十字病院→愛媛大学の順です
5. 今年は年会費を未徴収としました (技師会費も未徴収とします)
6. 幹事の交代について 前田は 2022 年 3 月末で退任予定。山上先生からも幹事交代の希望が出ています
7. 愛媛県臨床細胞学会奨励賞について 「副賞を増額」、「候補者を 2-3 人事前に立てて研究や発表を推奨する」、「現在の条件を緩和する」などが提案されています。引き続き検討する事としました

令和3年度愛媛県臨床細胞学会役員会議事録

日時 令和4年3月21日 11:45～

会場 愛媛県立中央病院管理棟4階会議室

出席者 寺本 典弘、和泉元 雅子、水野洋輔(大城由美代理)、岡田 正則、木藤 克己、佐伯 勇輔、佐伯 健二、竹原 和宏、飛田 陽、松影 昭一、山本 珠美

<議題>

1. 本学会の研修単位 CT(JSC)10点, CT(IAC)4点 ・ 会員数 115名
2. 会計報告(令和2年度)は承認された。
3. 2022年(2021年度)の支部総会・学術講演会, 特別講演について
 - コロナにより延期になりましたが3月21日開催されました。会場は当初予定の四国がんセンターが50人以上の参加する会を認めないので愛媛県立中央病院の講堂をお借りしました。
 - プログラムは別紙プログラムの通り
4. 2023年(2022年度)の支部総会・学術講演会, 特別講演について
 - 次回シンポジウム世話施設は市立宇和島。以後→愛媛大学→県中→松山赤十字病院→の順です
 - 持ち回り企画シンポジウムの内容について (寺本)
 - 愛媛県の規模から、毎回4-5施設が参加するシンポジウムを開催すると一般演題その他の活動がかえって阻害される可能性があるのでは? 時間はもう少し短くてもいいし講演者も少なくてもいい。企画に合わせて外部講師込みで企画するのも可(寺本)
 - 了承を得た。ただし、宇和島市民Hの企画を縛るものではない
 - 学術集会の開催形式について (寺本)
 - 情報・知識を得る、経験を積む、スライドカンファレンスへの参加などを目的に愛媛県支部会の学術集会を組み直したい
 - 年一回終日 → 年二回半日に変えたい(実開催+web)
 - ◇ 二回開催例
 - ◇ 1月 座学中心 外部講師特別講演 1hr+シンポジウム 1.5hr
 - ◇ 7月参加型 一般演題+スライドカンファレンス
5. 今年は年会費のみ徴収としました。技師会費・連合会費の徴収はなし。
6. 役員会メンバー: 松山市民・飛田先生追加。山上先生の後任をだれにするか?

7. 役員会のメンバー選定にルールを作るか？（寺本）
8. → 作ることとまとまる。新規約と来年度メンバーの承認を総会で得る予定
9. 愛媛県臨床細胞学会奨励賞について 4名が役員会で承認された。
10. 会誌はデジタル化された。デジタル化されたと言うことで会員名簿をどうするか？これまで通り、開始の最後に載せるわけにも行かなくなる。非公表とするか？
11. →名前・資格・病院名のみの名簿を会誌につけることに決定

令和3年度愛媛県臨床細胞学会総会記事

日時 令和4年3月21日 15:00-15:30

会場 愛媛県立中央病院 講堂

出席者 80名

<報告>

1. 本学会の研修単位 CT(JSC)10点, CT(IAC)4点・会員数 115名
2. 会計報告(令和2年度)は承認された。(27p)
3. 2022年(2021年度)の支部総会・学術講演会, 特別講演について
 - コロナにより延期になりましたが3月21日開催されました。会場は当初予定の四国がんセンターが50人以上の参加する会を認めないので愛媛県立中央病院の講堂をお借りしました。
 - プログラムは別紙プログラムの通り

<議事>

1. 2023年(2022年度)の支部総会・学術講演会, 特別講演について(寺本)
 - 次回シンポジウム世話施設は市立宇和島。以後→愛媛大学→県中→松山赤十字病院→の順
 - 持ち回り企画シンポジウムの内容について
 - 愛媛県の規模から、毎回4-5施設が参加するシンポジウムを開催すると一般演題、その他の研究活動がかえって阻害される可能性がある。時間はもう少し短くてもいいし講演者も少なくてもいい。企画に合わせて外部講師込みで企画するのも可
 - 学術集会の開催形式について
 - 情報・知識を得る、経験を積む、スライドカンファレンスへの参加などを目的に愛媛県支部会の学術集会を組み直したい
 - 年一回終日 → 年二回半日に変えたい(実開催+web)
 - 二回開催例
 - ◇ 1月座学中心 外部講師特別講演 1hr+シンポジウム 1.5hr
 - ◇ 7月参加型 一般演題+スライドカンファレンス
2. 今年は年会費のみ徴収とした。技師会費・連合会費の徴収はなし。
 - 役員会メンバー: 新規約を策定し、来年度メンバーとともに総会で承認を得た。新規約は会報22pを参照。新役員は26p。
3. 愛媛県臨床細胞学会奨励賞4名を表彰した。

4. 会誌はデジタル化された。

名前・資格・病院名のみの名簿を会誌につけることが承認された。

名簿は28p

愛媛県臨床細胞学会会則

第1章 名称と事務局

第1条 本会は愛媛県臨床細胞学会と称する。

第2条 本会の事務局は愛媛県立中央病院病理診断部内におく。

第2章 目的と事業

第3条 本会は愛媛県における臨床細胞学の発展と普及を図ることを目的とする。

第4条 本会は前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

1. 学術集会の開催。
2. その他本会の目的達成のため必要事業。

第3章 会員

第5条 日本臨床細胞学会会員で愛媛県内に就職または在住するものを会員とする。ただし、本会会員以外の日本臨床細胞学会会員および非会員でも、本会の学術集会のみに出席するものを当日会員とする。

第6条 会員は本会が開催する総会または集会に出席して発言して、業績を発表することができる。

第7条 本会の趣旨に賛同し本会を賛助する目的で特別会費を納入する個人または法人を賛助会員とする。満70歳を越えた会員は、名誉会員または功労会員として中国四国連合会に推薦する

第4章 役員

第8条 本会に下記の役員をおく。

会長 1名 幹事 若干名

第9条 会長は愛媛県内に就職する日本臨床細胞学会理事、評議員および指導医のうちより選出する。

第10条 会長は**東予中予南予の地域性を注視し、細胞診専門医・細胞検査士からそれぞれ若干名の幹事を選出し、総会での承認を受ける。**

第11条 会長は随時役員会を召集することができる。

第12条 会長は本会の活動状況について日本臨床細胞学会会長に年1回文書で報告しなければならない。

第13条 役員任期は3年とする。ただし再任は妨げない。

第5章 会議と集会

第14条 本会は年1回、本会総会を開催する。

第15条 学術集会は愛媛県臨床細胞学会学術集会と呼称し、年1回以上開催する。学術集会の集会長ならびに開催場所は幹事会において協議決定する。

第6章 会計

第16条 本会の経費は、会費および寄付金をもって当てる。

第17条 会費の額および納入方法は、幹事会にはかつて会長が定める。名誉会員、功労会員は会費の納入を免除する

第18条 本会の会計は担当幹事が管理する。

第19条 本会の会計年度は毎年4月1日にはじまり、翌年3月31日に終わる。

第7章 会則の変更

第20条 会則の変更は幹事会で討論し、総会の承認を得て行う。

付則 本会則は昭和60年5月31日から実施する。

本会則は平成28年1月31日に変更した。

本会則は平成31年1月31日に変更した

本会則は令和 4 年 3 月 21 日に変更した

役員会名簿 (2022～23 年度)

会長	寺本 典弘	四国がんセンター 病理科	
幹事	和泉元 雅子	松山市民病院	
	大城 由美	松山赤十字病院 病理診断科	★
	岡田 正則	住友別子病院 病理診断科	
	北澤 理子	愛媛大学医学部附属病院 病理診断科	
	木藤 克己	愛媛県立中央病院 病理	
	佐伯 勇輔	西条中央病院 中央検査部	★★
	佐伯 健二	愛媛県総合保健協会	
	竹原 和宏	四国がんセンター 婦人科	
	則松 良明	愛媛県立医療技術大学	
	飛田 陽	松山市民病院	
	松影 昭一	市立宇和島病院 病理診断科	
	松元 隆	愛媛大学医学部 産婦人科	
	山本 珠美	四国がんセンター 臨床検査科	

以上 14 名 (50 音順) ★ : 会計幹事、★★ : 愛媛県細胞検査士会 代表

令和2年度会計報告(R2.4.1～R3.3.31)

令和2年度会計報告(R2.4.1～R3.3.31)

1.収入の部

前年度繰越金	836151
細胞診センター運営指導費(医師会から)	200000
利子(R2.9, R3.3)	6
令和元年度会費*	0
令和元年度細胞検査士会費*	0
小計	200006
合計	1036157

2.支出の部

日本臨床細胞学会中国四国連合会	111000
平成30年度愛媛県臨床細胞学会(R3.1.31開催)	
講師謝礼(大森先生・山梨大)	50000
奨励賞(田中慎一 ex.四国がん)	20000
web会議補助(愛媛県中竹田)	20000
愛媛県細胞検査士会*	0
学会会報印刷代(メイロウシャ)	149380
小計	350380
次年度繰越金	685777
合計	1036157

*コロナ禍により徴収せず

会計監査 2022年3月15日

愛媛県立中央病院

木藤 克己



年会費:医師 2,000円, 細胞検査士 4,000円, 臨床検査技師 2,000円

振り込み口座 愛媛銀行 県立中央病院出張所 店番 60 普通口座 3235002

名義 愛媛県臨床細胞学会(エヒメケンリンシヨウサイボウガッカイ)

ただし令和2年は徴収せず

愛媛県臨床細胞学会会員名簿

名誉会員

氏名	所	属	医師
森脇 昭介			氏名
野河 孝充			所

功労会員

氏名	所	属	医師
渡辺 克一	いよ産婦人科医院		中西 護
岩崎 統	愛媛県総合保健協会		谷口 緑
植田 規史	済生会西条病院	病理診断科	谷脇 真潮
大西 博三	愛媛労災病院	病理	森川 紳之祐
日野 典文			日比野 佑美

細胞検査士

氏名	所	属	氏名
伊能 公代	愛媛県総合保健協会	病理	金子真由美
金子真由美	愛媛県総合保健協会	病理	佐伯 健二
佐伯 健二	愛媛県総合保健協会	病理	高橋 若菜
高橋 若菜	愛媛県総合保健協会	病理	深田 千尋
深田 千尋	愛媛県総合保健協会	病理	水野 和江
水野 和江	愛媛県総合保健協会	病理	山口 美紀
山口 美紀	愛媛県総合保健協会	病理	藤田 泰史
藤田 泰史	愛媛県総合保健協会	病理	上田 翔子
上田 翔子	愛媛県総合保健協会	病理	浅海 朋恵
浅海 朋恵	愛媛県総合保健協会	病理	風谷 早紀
風谷 早紀	愛媛県総合保健協会	病理	窪田 裕美
窪田 裕美	松山赤十字病院	病理診断科部	坂本 真吾
坂本 真吾	松山赤十字病院	病理診断科部	高石 治彦
高石 治彦	松山赤十字病院	病理診断科部	三好 陽子
三好 陽子	松山赤十字病院	病理診断科部	高島 香菜子
高島 香菜子	松山赤十字病院	病理診断科部	松本 優衣
松本 優衣	松山赤十字病院	病理診断科部	榎 美奈
榎 美奈	松山赤十字病院	検査部	山本 珠美
山本 珠美	四国がんセンター	臨床検査科	田母神佐智子
田母神佐智子	四国がんセンター	臨床検査科	田中 慎一
田中 慎一	川崎医療福祉大学	医療技術学部 臨床検査学科	岡本 奈美
岡本 奈美	四国がんセンター	臨床検査科	楠 真奈美
楠 真奈美	四国がんセンター	臨床検査科	

細胞診指導医

氏名	所	属	氏名
竹原 和宏	四国がんセンター	婦人科	伊能 公代
大亀 真一	四国がんセンター	婦人科	金子真由美
横山 貴紀	四国がんセンター	婦人科	佐伯 健二
藤本 悦子	四国がんセンター	婦人科	高橋 若菜
寺本 典弘	四国がんセンター	病理科	深田 千尋
高畑 浩之	四国がんセンター	病理科	水野 和江
北澤 荘平	愛媛大学医学部	分子病理	山口 美紀
北澤 理子	愛媛大学医学部附属病院	病理診断科	藤田 泰史
増本 純也	愛媛大学医学部	解析病理	上田 翔子
倉田 美恵	愛媛大学医学部	解析病理	浅海 朋恵
松元 隆	愛媛大学医学部	産婦人科	風谷 早紀
宇佐美知香	愛媛大学医学部	産婦人科	窪田 裕美
山上啓太郎	新居浜協立病院		坂本 真吾
松影 昭一	市立宇和島病院	病理診断科	高石 治彦
飛田 陽	松山市民病院	病理	三好 陽子
大城 由美	松山赤十字病院	病理診断科	高島 香菜子
水野 洋輔	松山赤十字病院	病理診断科	松本 優衣
杉田 敦郎	愛媛県立中央病院	病理	榎 美奈
木藤 克己	愛媛県立中央病院	病理	山本 珠美
前田 智治	愛媛県立中央病院	病理	田母神佐智子
久野 美子	久野内科		田中 慎一

井上 信行	愛媛県立中央病院 検査部	堀内啓太郎	済生会西条病院
加藤 真紀子	愛媛県立中央病院 検査部	此上 武典	市立八幡浜総合病院
木下 幸正	愛媛県立中央病院 検査部	一色 順子	社会医療法人真泉会 松山まどんな病院
森 理恵	愛媛県立中央病院 検査部	井上由紀江	愛媛労災病院 検査科
高石 裕子	愛媛県立中央病院 検査部	佐伯 勇輔	西条中央病院 中央検査部
尾崎 萌	愛媛県立中央病院 検査部	馬木 和則	今治市医師会診療所
越智 景子	愛媛県立中央病院 検査部	原 正樹	JCHO 宇和島病院
和田 裕貴	愛媛県立中央病院 検査部	佐伯 逸子	つばきウイメンズクリニック
高石 修	愛媛県立中央病院 検査部	石田 茂己	愛媛メディカルラボラトリー八幡浜ラボ
兵頭 直樹	愛媛県立中央病院 検査部	古本 好江	
亀岡 美咲	愛媛県立中央病院 検査部	清水美由紀	
松家 由紀	松山市民病院 病理	水野 彩乃	
和泉元 雅子	松山市民病院 病理	渡部 菜穂	公立学校共済四国中央病院
湊 憲武	松山市民病院 病理		
則松 良明	愛媛県立医療技術大学	臨床検査技師	
徳原 康哲	愛媛県立医療技術大学	氏 名	所 属
細川 翔	愛媛県立医療技術大学	武井 彩	愛媛県総合保健協会 病理
今井 美奈	愛媛大学医学部附属病院 病理診断科	竹田 雄基	愛媛県総合保健協会 病理
片山 英司	愛媛大学医学部附属病院 病理診断科	相本 菜月	愛媛県総合保健協会 病理
明賀 さつき	愛媛大学医学部附属病院 病理診断科	相原 里江	愛媛県総合保健協会 病理
近藤 拓弥	愛媛大学医学部附属病院 病理診断科	門屋 孝志	松山赤十字病院 病理診断科部
橋本真理子	愛媛大学医学部 分子病理	池田 みか	松山赤十字病院 病理診断科部
三好 里佳	済生会今治病院 検査科	若藤 諒	松山赤十字病院 病理診断科部
矢野 好人	済生会今治病院 検査科	薬師寺孝徳	市立宇和島病院 病理診断科
中川 健司	市立宇和島病院 病理診断科	影山 由美	愛媛大学医学部附属病院 病理診断科
菅 恭弘	市立宇和島病院 病理診断科	吉田 拓海	愛媛大学医学部附属病院 病理診断科
岡田 正則	住友別子病院 病理診断科	山村 展央	市立八幡浜総合病院
小野 和恵	住友別子病院 病理診断科	西城 朗	市立八幡浜総合病院
河口 本子	住友別子病院 病理診断科		
眞鍋 章子	住友別子病院 病理診断科		
佐々木恵美	積善会附属十全総合病院		

2022年3月18日

編集後記 (version 1.6)

今回から紙での発刊をやめ pdf とします。発刊に 10 万円以上の会費をかける理由は思いつきませんし、なにより印刷は面倒です。デジタル化されていない情報に価値はないという考えもあるそうなので、今後これで行きたいと思います。デジタル化すると、自由に追加して途中で発刊できるなどの良い点があります。今回も総会で承認された会計報告、総会議事録、最終的な編集後記、秘書による最終添削をたして完成としたいと思っています。

今回は初回なのでほぼ全部自分で作成しました。大変でした。だいたい中身はわかりましたので、今後は手分けしてデジタルの強みを生かしたものを作っていきたいと思います。

(寺本典弘 記)

愛媛臨床細胞学会会報 第 29 号

令和 4 年 4 月 28 日 version 2.0

編集 愛媛県臨床細胞学会会長 寺本典弘

四国がんセンター病理科

TEL: 089-999-1111

E-mail: 寺本(←ローマ字で)@shikoku.cc(←四国.CancerCenter)

愛媛県臨床細胞学会へのメールは
[cytology のあと@shikoku.cc](mailto:cytologyのあと@shikoku.cc) です。“のあと”は削除